

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2026年5月27日 (Vol.195)

「竹久夢二、作品と俳句」-其の一

「季語に遊ぶ」のコラム復活について

2025年5月27日配信のメルマガにおいて、一旦終了いたしました「季語に遊ぶ」のコラムを読者の皆様のご要望と、担当の白井芳雄の意欲も高まりましたので、今回から復活いたします。ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

「竹久夢二、作品と俳句」-其の壱



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1926-Thorns_of_Roses.png

「薔薇のとげ」(1926年、童謡集『凧』の口絵)

明治末期から大正時代に活躍し「大正浪漫」を代表する画家・詩人・グラフィックデザイナーであった竹久夢二。

憂いを帯びた「夢二式美人」で一世を風靡し、水彩画・油彩画・木版画、さらにデザインの分野や挿絵まで幅広く作品を残し、詩や童謡など文芸面においてもその才能を発揮しました。大流行した「宵待草」は夢二の作詞によるものです。

恋多く、漂白の人生を歩み、現在においてもその軌跡は注目されています。

<1884年-1934年(明治17年-昭和9年)>

昭和9年9月1日没。49歳11か月の生涯を閉じる。

「季語に遊ぶ」では今回から数回、竹久夢二の代表的な作品をおおむね製作時期順に紹介し、その作品に合う俳句を選びました。

お楽しみください。

「初恋」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Takehisa_Yumeji-1912-First_Love.png
大正元年（1912） 油彩・カンバス 91.0 × 39.5cm 夢二郷土美術館

大胆に恋を詠んだ島崎藤村の詩「初恋」（『若菜集』）にモチーフを得たと考えられる油彩画で、第一回夢二作品覧会に出品された現存する最も早い作品。

島崎藤村の詩「初恋」は、明治30年(1897年)に刊行された処女詩集『若菜集』に収録され、七五調の整ったリズムで、林檎をモチーフに少年の恋の自覚と高まりを繊細に描いた日本を代表する抒情詩です。

対して、夢二の描くこの絵は、単に恋の歓びを描くのではなく、どこか儂げで憂いを帯びた雰囲気や女性の表情によって表現され、落下した「青い林檎」は初恋の甘酸っぱさや、成熟しない未熟さ、そして、実る前の初々しい恋心を醸し出しています。

林檎に眼をやる女性と、手で顔を覆う男性との取り合わせに、この場の状況が汲みとれ、夕暮れの冷気はやり場のない二人の心に忍び寄っています。

多くの女性と恋に落ちた夢二が描く「初恋」はきらめくような歓びよりも、切なさや、儂く消えてしまう恋を予感させる作品になっています。

ここでは、絵に描かれている「林檎」と「初恋」プラス季語で詠まれた句を選びました。

「林檎(りんご)」 晩秋

バラ科リンゴ属の落葉高木で、みかんとともに、日本人が最も食べている果物。

西アジアから中部欧州にかけて、4000年も前から栽培され、ヨーロッパでは最も古い栽培の歴史を持つ果樹の一つ。

かつては、アップル(apple)という語は果物を代表する意味に使われていました。

日本には明治時代初めに渡来した果物で、早生の「青林檎」以外は通常、秋に収穫されます。

品種は約2000種もあり、日本では「国光」「紅玉」が多く栽培されていましたが、現在では「ふじ」「ジョナゴールド」などが主流です、

また、林檎の名は林内で鳥が好んで集まり実を啄(ついば)んだので名がついたとされています。

樹のリンゴ地上の妻の籠に満つ

津田清子

制服に林檎を磨き飽かぬかな

林 翔

寂しがる母もう居らず林檎の香

中西夕起

「初恋」 プラス季語

「初恋」の句は正岡子規が数多く読んでいます。
ここでは、その内の三句を紹介します。

初恋の乱れ易さよ青芒

季語「青芒(あおすすき)」で三夏

初恋の背合わせけり涼み台

季語「涼み台」で晩夏

明け易き夜(よ)を初恋のもどかしさ

季語「明易(あけやす)」で三夏

「明易」は短い夏の夜の事です。
俳句では、時間の短さというより、短さを惜しむ心持ちに重きが置かれています。

「黒船屋」



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kurofuneya.JPG>

大正8年(1919) 絹本着色 130.0 × 50.6cm 竹久夢二伊香保記念館

描かれている女性は色白のうりざね顔、伏し目がちの大きな瞳、なだらかな肩の線、簡潔な全身の輪郭、艶やかでありながらもどこか寂しげで、異国情緒漂う雰囲気をまとっています。

「夢二式美人」と呼ばれる独特の女性像の典型的な作品です。

黒と黄を基調に、緑色の帯、薄紅色の袖口、角に金具のある赤い箱、とはっきりとした色彩の取り合わせが、強烈な存在感となって迫ってきます。

「黒船屋」はヴァン・ドンゲンの「Woman with Cat(猫を抱く女)」にヒントを得た作品とされています。

黒猫のポーズ、抱く女性の右手もそのままですが、黄八丈の日本女性を箱に座らせ、膝の上に抱かせたことで、黒猫の存在感が増しその重さまでもが伝わってきます。

師につかなかった夢二は、本屋でヨーロッパの絵画雑誌を立ち読みしてたといい、そのスクラップブックにはルノアールやムンク、さらにはヨーロッパの名もない画家の作品まで切り抜きがたくさん貼られていました。

また、夢二が関心を持っていたのは、西洋美術にとどまらず、同時代の日本の画家たちの作品図版やコマ絵、浮世絵、人物写真など、切り抜きの内容は多岐にわたっています。

独学で多くのことを吸収しようと広い分野にアンテナを張り巡らせていた夢二の一面がうかがえます。

ここでは描かれている「猫」の春夏秋冬を詠んだ句を選びました。

猫の恋やむとき閨(ねや)の朧月(おぼろづき)

松尾芭蕉

季語「朧月」で三春

スリッパを超えかねている仔猫かな

高浜虚子

季語「仔猫」で晩春

猫の児ものけぞり臥せし暑さかな

双葉亭四迷

季語「暑さ」で三夏

うしろから猫の飛びつく袷(あわせ)かな

正岡子規

季語「袷」で初夏

客われをじつと見る猫秋の宵

八木絵馬

季語「秋の宵」で三秋

猫眠るギターケースや黄落期

湯川 潤

季語「黄落期」で晩秋

何もかも知っているなり竈猫(かまどねこ)

富安風生

季語「竈猫」で三冬

薄目あけ人嫌ひなり炬燵(こたつ)猫

松本たかし

季語「炬燵猫」で三冬

私も詠んでみました。

黒猫にチュウして躲(かわ)す黒揚羽

白井芳雄

季語「黒揚羽」で三夏

「薔薇のとげ」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1926-Thorns_of_Roses.png

「薔薇のとげ」(1926年、童謡集『凧』の口絵)

夢二が手掛けた童謡集『凧(たこ)』に収録されている作品です。

夢二は生涯を通じて、文学や絵画など、子供向けの作品も数多く残しています。

当時の児童雑誌に掲載されたものの他にも、図案集、詩集、童話、子供のための絵の練習帳といった各種の専門図書を出しており、さらには童話劇も手がけていました。

これらの作品は、文章も絵も大人が子供に語りかけるようなものではなく、子供の目線で描かれていて、どれも純心な子供心が溢れています。

夢二がそこにこだわった理由の一つは、夢二自身が、三人の子供の父親であることからです。特に、大正6年(1917年)以降、夢二の手元で養育された次男の不二彦(愛称「チョコ」)の幼少時の写真には、洋服姿で撮影されたものが多く残されています。

チョコはまた、夢二の描く子ども服や夢二の製作する童話や童謡の大切なモチーフとなりました。トレードマークの大きな帽子をかぶったチョコの面影は、夢二の著書や雑誌の口絵や挿絵などに描かれる男の子の姿に重なっています。

この絵は童謡集「凧」に収録されていることから、純粋な少年が大人へと成長する過程での甘く、切ない感情を薔薇(恋)のトゲ(傷つきやすさ)で表現しているとされます。

この作品は、そのデザイン性の高さから、マウスパッドやスマートフォンのケースなどのアートグッズとしても人気があります。

ここでは初夏の季語「薔薇」の関連季語の「薔薇の棘」を詠んだ句を選びました。

薔薇の棘（とげ） 初夏

薔薇の野生種は世界に約 200 種、日本にも約 10 種あります。

古代から中近東や中国で色と香りが愛されてきましたが、現在の園芸種はヨーロッパと東西アジアの原産種が複雑に交配されたものです。

庭に植えたり、切り花として楽しんだり、薔薇の花は世界中の人々に愛されています。

一重あり八重あり、豊富な花の色や、甘い香り、魅力的な形など、どれをとっても好まれる植物です。

日本では、すでに『源氏物語』の「賢木（さかき）」の巻に<階（はし）のもとのそうび>とあり、そのころは「そうび」「しょうび」と呼ばれていました。

針ありと蝶に知らせん花薔薇（はなそうび）

中川乙由（なかがわ おつゆう）

己れ刺（とげ）あること知りて花そうび

正岡子規

薔薇を剪（き）り棘をののしる誕生日

西東三鬼

ことごとく刺す意あらはに薔薇の棘

土生重次

私も詠んでみました。

知らぬ間に小指に朱斑ばらのとげ

白井芳雄

主な参考文献、出典：著者 小川晶子
『もっと知りたい竹久夢二 生涯と作品』（東京美術）（2009年）
ISBN978-4-8087-0839-9 C0071

編者 竹久夢二美術館 石川桂子 谷口朋子
『竹久夢二のおしゃれ読本』（河出書房新社）（2005年）
ISBN4-309-72744-1

著者 王文萱 翻訳 藤原由希
『竹久夢二の世界 美人画からモダンデザインまで』
（パイインターナショナル）（2024年）
ISBN978-4-7562-5821-2

編集人 高橋洋二
『別冊太陽 No.20 AUTUMN' 77』（平凡社）（1977年）
ISBN4-582-92020-9

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com